

ICAN Monthly Report 4



新設した校舎の引き渡し式典(ピキット)

ミンダナオに「平和の学校」が新たに 4 校完成

<紛争地の子どもたちの事業：担当スタッフからのレポート>

2016年3月、ミンダナオ島中西部にあるコタバト州ピキット町において、「平和の学校(School of Peace)」が新たに4校誕生しました。平和教育に積極的なモデル校「平和の学校」は、これで通算19校になります。

アイキャンは、2011年11月から約三年間をかけて、ピキット町北東部で「平和の学校」をつくる活動を行ってきました。昨年3月からの一年間では、同町西部の3つの高校の教師らに対する研修を行うとともに、その内の1つの高校と、同じ地域にある小学校で、校舎の建設を行ってきました。建設の対象となった2校は、過去20年にわたる紛争により、銃撃や爆撃で教室が壊されたマダグカヤ小学校と、雨が降ると授業を中断せざるを得ないような竹製の教室しかない状況にもかかわらず、長らく紛争の中、教育環境の整備に手が付けられていなかったダトゥ・ビトル・マンガサカン記念高校です。3校における研修に加え、この2校における各1棟2教室の建設と教室備品の整備が、この3月に完了しました。

完成した校舎を現地教育省に引き渡す式典が3月15日に開催され、生徒・教師などを含む学校関係者、市や村の担当者、教育省、モロイスラム解放戦線、日本大使館関係者、国際停戦監視団(IMT)、キリスト教及びイスラム教の宗教指導者、NGO、地域住民など、約600名が参加しました。各代表がスピーチをする中、高校の生徒代表のアドゥラー君(16歳)は、「校舎という贈り物を頂き、とても嬉しく、わくわくしています。この教室は、僕たちが知識や能力を高めていくための大切な場所になります。」と話しました。

その後、4校の「平和の学校宣言」がなされ、学校や地域における平和教育や平和の文化に対する意識を高めること、教師や行政官、地域リーダーの平和教育や平和の文化を広める活動を実施する能力を強化すること、いかなる時も、全ての暴力から子どもたちを守り適切にケアすること、学校や村の制度や方針、計画に、平和プログラムの実施を取り入れること、などが約束されました。

「平和の学校」は、地域の人々の間に調和をもたらし、地域の平和と発展への協働を生み出します。私は、30年近くこの地域の人々の人権や平和が守られることを願って働いてきましたが、今アイキャンのスタッフとして本事業に従事することで、ミンダナオの平和に貢献できることを誇りに思っています。

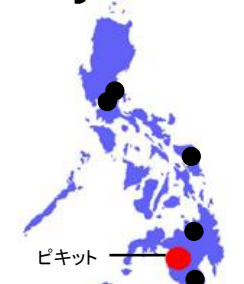


ICAN ミンダナオ
中部事務所

Edwin S. Antipuesto
～プロフィール～

平和と開発の修士号を取得し、20年以上の平和構築や地域開発分野での業務経験を持つ。2013年9月にICANに入職し、事業のチームリーダー兼平和研修責任者。

Project Site



※●はアイキャン活動地

認定NPO法人アイキャン

〒460-0011 愛知県名古屋市中区大須3-5-4 矢場町パークビル9階 TEL/FAX: 052-253-7299 メール: info@ican.or.jp
ホームページ <http://www.ican.or.jp> フェイスブック <https://www.facebook.com/ICAN.NGO>

【編集者から一言】 マンスリーパートナーになっていただくことで、ミンダナオの平和も応援していただけます。詳細は上記HPへ。

Close up

I. 危機的状況にある子どもたちと「ともに」行う活動

全10事業の中から、今月はこちらの2つをご紹介します。

路上の子どもたち(ケソン)

3月15日

カフェの本格営業開始



路上の若者の協同組合カリエが9月にプレオープンしたカフェが、この日グランドオープンを迎え、JICA フィリピンの関係者を招待して総勢20名でセレモニーを行いました。エルシーさん(19歳)は「路上にいた私たちが、今このようにお店を持っていることを幸せに思う。スタッフ一同、一層邁進していきたい。」と意気込みを語りました。

紛争地の子どもたち(ジブチ)

3月21日

絵に表現される子どもたちの心



イエメン難民キャンプで絵を描くワークショップを行い、4~13歳のイエメン難民の子ども約50名が参加しました。沢山の子どもがイエメンの国旗を描き「これがイエメン!」と誇らしげに見せる一方、紛争の様子を描き「これが飛行機、これが戦車、そしてこれが死んでいる人」と話す子どももいました。子どもたちが少しでも過去の悲惨な体験を克服できるよう、活動を継続していきます。

II. できること (ICAN) を増やす活動

全7事業の中から、今月はこちらの2つをご紹介します。

スタディツアー・研修事業

3月7~13日/マニラ

フィリピンで「いのち・健康」を考える

文科省のスーパーグローバルハイスクール(SGH)指定校である長野県上田高校の生徒26名が、フィリピンで研修を行いました。「いのち・健康」をテーマにした本研修では、アイキャンの事業地に加え、高齢者福祉に取り組む施設や団体も訪問し、事前に準備したプレゼンテーションも行いました。生徒からは、「この研修に参加し、アイキャンに出会えて、本当に幸せです。」などの感想がありました。



MY アイキャン事業

3月6日/名古屋

ボランティアグループ主体のイベント

JICA 中部のイベント「見て・知って・始めてみよう! 国際協力!」において、アイキャンのボランティア有志によるグループ「WE CAN」が、ブースでの活動紹介や路上の子どもについて考える講座を行いました。メンバーのAさんは、「WE CAN 主体の外部イベントは初めてで大変だったけど、当日のメンバー9人全員が、アイキャンについて説明する機会を持ってよかったし、課題も見つかった」と話しました。



今月の Topic



図書館で5mの巨大展示!

3月21~30日/名古屋

2月からの2ヶ月間、大学生3名のアイキャンボランティアが、路上の子どもたちの状況やフェアトレードの重要性を伝える幅5mのポスターを作り、名古屋市中央図書館に10日間展示しました。図書館への依頼から全て自分たちで行い、展示を終えたTさんは、「日常の中で当たり前のようにある物事を見直してみることで世界は変わるということ、多くの人に伝えられれば」と語りました。

今月の Media

- | | |
|---|-------------------------------|
| 3月1日 国際開発ジャーナル 3月号 紛争地の事業について | 3月21日 日本テレビ NEWS ZERO 職員吉田の紹介 |
| 3月2日 Global News Asia 名東高校生が路上の子どもとスカイプ交流 | 3月24日 オルタナ 路上の若者のカフェ起業活動 |
| 3月3日 電気新聞 「でんきの科学館」で路上の子どもについて展示 | 3月25日 岐阜新聞 フィリピンにおける ODA |

今月の ICAN 名人

◎伊井さん、これからインターンとしても、よろしくお祈りします!

マンスリーパートナー 伊井恵さん

「まずは勉強し、いつかフィリピンの子どもの力に」

インタビュー:4月13日

私は、栄養士として途上で働きたいと以前から思っていたのですが、行ったことがなく、スタディツアーを探していてアイキャンを見つけました。インターンにも興味があり、どういう団体か、どんな人が働いているか、何が学べるかを、ツアーで知ってから考えることにしました。

2月のツアーに参加し、現地に行って自分で感じないと分からないことが沢山あると思いました。また、日本でニュースを聞いている時は、自分にできることはないのではないかと感じていたのですが、実際は、わずかな寄付や少しの行動が、積み重なって大きな動きに変わっていて、自分の小さな力は全然無駄にならないと感じることができました。そして、まずは自分自身が勉強し、その力をつけることで、いつかフィリピンの子どもの役に立てると考え、帰国後に日本事務局のインターンに応募しました。

インターンでは、まず組織の仕組みを学びたいと思っています。大学の研究室の先生が、栄養士としての知識だけでなく、運営や資金に関する知識が不可欠であると助言をくださったからです。また、アイキャンの活動は、ボランティアの人に支えられていると思うので、ボランティアコーディネートにも携わって、色々な意見を聞きながら、一緒に成長できたらと思っています。

